






学部長	所属長	本部長	副本部長	室長
				

令和4年3月28日

理事長 殿
学長 殿


令和2年度予算繰越“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関しまして、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ（KURRepo）に公開する旨、承諾いたします。

1. カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 研究 <input type="checkbox"/> 開発・改良 <input type="checkbox"/> 提案
2. 企画題目	妊婦の分娩時における、新型コロナウイルス抗原・抗体陽性率の調査研究

所 属： 医学部産科婦人科学教室

職・氏名： 教授・松村 謙臣 

R2 年度代表申請者

氏名： 松村 謙臣

令和2年度予算繰越“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	妊婦の分娩時における、新型コロナウイルス抗原・抗体陽性率の調査研究
研究者所属・氏名	研究代表者：松村謙臣 共同研究者：宮澤正顕、吉田耕一郎、伊木雅之

1. 研究、開発・改良、提案 目的及び内容

妊婦における新型コロナウイルス感染症の抗体陽性率に疫学データを収集する。

2. 研究、開発・改良、提案 経過及び成果

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大は未だ収束せず、今なお多くの感染者が確認されているが、徐々に新型コロナウイルス感染症に関する知見や疫学データが集積されている。一方で、本邦の妊婦における感染率などの疫学データは乏しい。そこで、疫学調査として、2021年2月から2022年2月に南大阪の研究協力医療機関で妊婦健診を実施している妊婦を対象にして採血検査を実施し、IgG抗体の保有率を調べることにした。

妊婦は妊婦健診において、妊娠初期(8-10週)、妊娠中期(24-26週)、妊娠後期(34-36週)で採血検査を実施するため、本研究では原則、妊娠後期の採血検査と併せてIgG抗体検査を実施した。IgG抗体は、当初、既感染症例のみに陽性となる抗N抗体を調査していたが、妊婦に対するワクチン接種の拡大を受け、2022年11月からは既感染のみならずワクチン接種でも陽性となり感染を防御する抗S抗体の検査を追加して実施した。

また検査実施時には、妊娠経過中の感染歴や濃厚接触歴、PCR検査歴についても調査を行った。

今回の調査では抗N抗体は3.7%(30/801)、抗S抗体は67.1%(491/732)で陽性となった。S抗体価は症例によって数十倍の違いが認められており、これは既感染の影響のみならず、個々におけるワクチン接種による免疫反応の差異を見ているものと思われる。

妊婦を含む全人口ベースでの疫学データと比較すると、大阪府において2021年12月に行われた1455名に対して実施された大規模疫学調査では、抗N抗体陽性率は3.8%であった。つまり、妊婦の新型コロナウイルス感染率は、一般集団と同等であることが予想された。

また、現在、20-40代におけるワクチン接種率は概ね80%前後であると報告されているが、今回、妊婦における抗S抗体陽性率が67.1%であり、ここには、既感染者が含まれることを加味すると、ワクチン接種率は一般集団に比較し、低いことが明らかとなった。妊婦は新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いと報告されており、ワクチン接種をより啓蒙すべきである。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案 計画

今後、ワクチン接種や既感染などの臨床データと抗S抗体価との比較を行い、妊婦におけるワクチン接種の効果や抗体獲得率についても検討を行っていく。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
第146回近畿産科婦人科学会学術集会	口頭	2022年6月18日～19日
第74回日本産科婦人科学会学術講演会	口頭	2022年8月5日～7日

5. 研究、開発・改良、提案 課題の成果発表等

今後、論文投稿予定。